

企業紹介

ユーザー目線で、お客様の
ほしいものを模索しています

ONYONE
オンヨネ 株式会社

代表取締役 恩田 浩典
〒940-8548 長岡市高見町4327
TEL(0258)24-0048 FAX(0258)24-5422
http://www.onyone.co.jp

業 種：外衣・シャツ製造
資 本 金：31,159万円
事業内容：スポーツウエア製造 ほか

スノーウエア、レインウエアを中心に、様々な行動着を製造、販売するオンヨネ㈱。「メーカー目線」ではなく、「ユーザー目線」に立って、スポーツ選手向けのウエアや、働き手の制服、ユニフォームなども幅広く手掛ける。また、2009年には、衝撃から体を守ることができる「d3o（ディースリーオー）」を用いた野球用のサポーターを開発し、販売を始めた。

雪国での行商から生まれたスキーウエアの開発

オンヨネ㈱は、1956年に衣料品販売の傍ら、外注工場を用いて製造を開始し、その過程で、現在同社の主力製品であるスキーウエア（現在、スノーウエア）の開発が進んだ。「寒く、重たい雪が降る雪国で行商を行うなかで、必然的に防寒、防水のウエアが生まれたのかもしれない」と恩田浩典社長は話す。



▲戦うための競技用スノーウエア

「ユーザー目線」に立ったウエアを

現在同社の中心商品は、「スノーウエア」と、ゴルフ用、アウトドア用などの「レインウエア」。さらに、野球などスポーツ選手向けのウエアから、働き手の制服、ユニフォームなども、幅広く手掛けている。そして、製造する際の基準は、「メーカー（作り手や売り手）目線」ではなく、「ユーザー（着る人）目線」。例えば、プロスポーツ選手向けでは、選手がいかにかストレスなく着用でき、そして適度な負荷がかかるウエアを開発するか。戦うためのウエアであることを最優先にしているため、勝負にこだわるプロスポーツ選手は同社のウエアを選ぶという。



▲プロ野球選手も着用する同社のベースボールウエア。契約を結んだ選手とは、共同で商品の開発も行う

また、「スポーツ選手だけじゃない、働き手も過酷なアスリートなんです。なので、ユニフォームは“運動を科学した行動着”です」と恩田社長。このため、働き手が着用する制服やユニフォームは、従来の大量生産型ではなく、体型に合わせて、着ていて楽で、便利で、動きやすい素材やカッティング、縫製などにこだわり、開発している。

怪我から体を守る「d3o」（ディースリーオー）

2009年、同社はイギリスのメーカーが開発した「d3o」を使って、高校野球選手用のサポーターを開発した。「d3o」とは、ふだんはゴムのようにやわらかいが、強い衝撃を受けると硬くなる素材。バッティンググローブやキャッチンググローブなどに用いて、怪我から体を守ることができる。今後は、高校野球選手向けだけでなく、さらに用途を拓げていくという。



▲「d3o」を用いた野球用バッティンググローブ

「我々は、買ってもらうのではなく、お客様がほしいものを模索している会社なのです」と力強く語る恩田社長。常に「ユーザー目線」で、今何が求められているのかを探している。